

令和6年度 循環型社会を実現する環境教育推進事業 事業実績書

【都城市立梅北小学校】

1 活動の概要

- 宮崎県環境保全アドバイザーを招聘し、4 R活動についての講話を聴き、今後自分たちができることについて考えさせ、実践化を図った。
- 各学級や環境委員会等普段の生活の中でしている活動を見直すとともに、PTAと連携して、家庭での4 R活動の推進を図った。

2 SDGs の視点

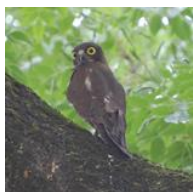
- 「 4 質の高い教育をみんなに」「11 住み続けられるまちづくりを」
「12 つくる責任 つかう責任」「15 陸の豊かさを守ろう」

事業の実施時期：補助を受けた日から令和7年3月14日

1 学校の概要

本校は、都城市の南に位置し、金御岳や霧島山麓が一望できる自然豊かな学校である。

毎年5月から7月の間、梅北小のアイドル・アオバズクの「うめちゃん」が運動場のせんだんで毎日愛らしい姿を見せてくれます。



本校は、「たくましい体、豊かな心、自ら考える力を備えた実践力のある児童の育成」を掲げ、創立152年目を終えようとしている歴史のある学校である。これまでに、環境教育に係る推進校やモデル校に指定されたり表彰されたりしている。また、平成15年度に民俗芸能伝承活動「安久節」の指定を受けて以来、現在まで継承活動を行っている。

本校が立地している中郷地区は、「中郷は一つ」という合言葉を掲げ、地域の活性化に力を注いでいる。

このような地域で暮らす本校の児童数は現在154名で、最近減少傾向にあったが、都城志布志道路完成により久しぶりの増加が見込まれている。児童は、普段から、朝のボランティア清掃、牛乳パック回収、学校の緑化活動に取り組んでいる。

2 活動のねらい

4 R活動について深く知り、自分たちに何ができるのかを考えさせた上で、実際に4 R活動に従事させる。また、1回の活動で終わらせるのではなく、次年度以降も家庭や地域で取り組める活動を創造・実践させる。

3 活動内容

本校では、まず、4 R活動についてもっと深く知るために宮崎県環境保全アドバイザーを招聘し、各学年に分かりやすく講演していただいた。

この講演を受けて、それぞれの学年でこれまでの生活から一歩踏み出した4 R活動を目指して取り組むことにした。

さらに、PTAと連携をし、家庭や地域での4 R活動の推進を図ることにした。

(1) 環境保全アドバイザー講演

4 R活動を深く知るために宮崎県環境情報センター出前講座を活用し、「4 R活動について理解しよう」という演題で、宮崎県環境保全アドバイザーの塩川誠一氏に各学年部ごとに講話をしていただいた。

このことで、4 R活動について興味や関心をもつことができたようである。特に、

児童はリサイクルについてはある程度の理解を示していたが、塩川氏の「必要なものだけを購入し不必要なものを購入しない。購入するときには、それが本当に必要かどうかをしっかりと考えてください。」という言葉にはっとさせられていたようである。



(2) 各学年の取組

児童は、環境に対する取組として、これまでに使用済み紙や牛乳パックのリサイクル、学校緑化活動を経験している。

前述の講演を受け、学年に応じて、身近なものや地域、学習に関連した4R活動を展開することとした。

① 第1・2学年

テーマ【低学年でもできる再利用をしてみよう～生活科の授業の中で～】

1・2年生は、朝顔や野菜作りでの水やり作業を使用済みのペットボトルで行ったり、生活科や図画工作科で読み終えた新聞紙を活用し、きれいなものはリサイクルを行ったりした。また、12月のおもちゃ祭りでは、廃材を利用したおもちゃ作りを行い、使用済みのおもちゃについてはテープ等をはがしてきちんとリサイクルした。

② 第3学年

テーマ【リサイクルとは何か：必要性を知りできることをやってみよう！】

3年生は、遠足で山崎紙源センターを見学し、段ボールや木、発泡スチロール、ペットボトル、缶、鉄等のリサイクルについて学んだ。また、教室で家にある古紙（不必要な紙）を学級のリサイクル箱に入れる活動を行った。

③ 第4学年

テーマ【梅北の梅を味わおう・リサイクルに挑戦しよう】

本校では、毎年初夏に校内に植えてある梅の実がたわわに実る。そこ

で、梅ちぎりをし、梅ジュースを作って試飲し、自然の恵みを感じた。また、山崎紙源センターを見学し、段ボールや木、発泡スチロール、ペットボトル、缶、鉄等のリサイクルについて学んだ。

この見学後、学級で話し合い、家にある不要物のリサイクル（家にある不要なものを持ち寄り、学習や日常生活に使えるようなものにする。）活動を行った。

実際には、自分達の身の回りで不必要になった新聞紙や空き缶、ペットボトル、段ボール等を活用して役に立つ物に作り替える活動を行



った。



【児童の感想】

『梅ジュースは、最初にあなを10か所くらいあけて、梅や水、氷砂糖をびんの中に入れて作りました。その後2週間ぐらいたって、中を見たら梅がとてもシワシワでした。飲んでみたらとてもすっぱくておいしかったです。』

『新聞紙でスリッパやバッグが作れるとは思いませんでした。思ったよりかわいくできたので使ってみたいと思いました。』

④ 第5学年

テーマ【梅北米プロジェクト】

毎年5年生は、社会科の学習と関連させて、稲作体験を実施している。本年度は、稲刈り体験を通して、米作りの苦労を知るとともに、自然を大切にする心を学び、環境に配慮した生活の在り方について考えさせることにした。

稲作体験と並行して、米、鶏、野菜、肉牛の栽培や飼育をされている方を学校に招き、話を聞いた。児童は、身近な方々の仕事への工夫や努力について知ることができた。それぞれの農家の方々が、牛の糞を堆肥化したりごみを出さない工夫をしたりと環境に配慮し、環境を十分に生かしたお仕事をされていることが分かった。

また、児童が収穫したもち米を使って

都城の郷土料理『ねったぼ』作りを行った。米作りの大変さや一粒を食べることの苦労に加えて昔の人の知恵や食を大切にする心を知ることができた。

【児童の感想】

『米作りの仕事は、大変なこともあるけれど、大事に育てたお米を食べたときや、高い値段がついたときには、うれしい気持ちになることを知りました。』

『自分達で育てたもち米を食べることができたので、うれしかったです。農業は、自然の4R活動に繋がっていることが分かりおどろきました。』

『ねったぼを始めて食べたけど、とてもおいしかったです。郷土料理が好きになりました。』



⑤ 第6学年

テーマ【”届けよう、服のチカラ”プロジェクト】

1学期（6月28日）にGUの店員を招き、服のリサイクルについての講義を受けた。このことを機に、このプロジェクトに参加することとした。学校を含め8箇所の事業所や店舗に児童が出向き、10月31日までの設置をお願いした。そして、11月1日に回収し、難民へ送ることを計画した。

集まった服は、段ボール9箱分（子ども服1000枚以上）にもなり、難民へ送ることができた。



【児童の感想】

『一日に世界中で1300トンの服が捨てられている。不要になった服を使っ

て難民を助けることができたので嬉しい。これからも使える服は捨てずにリユースして、環境を守りたい。』

（3）環境委員会の取組

常時活動では、正門や学級園に植えた花の世話をしたり、各学級から出た使用済みプリントを回収してリサイクルしたりした。

また、委員会活動の時間に、全校児童に向けて環境美化を呼びかけるポスター作りを行い、校内に掲示した。



（4）PTAとの連携

地域での環境保全に対する啓発と意識の高揚を図るために、PTA主催で、4R活動についてのアンケート調査を行った。地域での資源ごみリサイクルに積極的に参加していることが分かった。また、塩川氏の「不要なものをもらわない。」というメッセージを受けて、PTA役員の思いを込めたエコバッグを作成し各家庭に配付することでさらに4R活動についての意識を図った。

4 成果と課題

（1）研究の成果

- これまでの何気なく行っていた環境に対する取組について4R活動を意識しながら活動する児童が増えた。
- 保護者とともに4R活動を推進する足掛かりを確立することができた。

（2）今後の課題

- 4R活動に対するホームページの充実とさらなる児童主体の4R活動の推進。

学 校 名：都城市立梅北小学校

住 所：都城市梅北町4687番地

電話番号：0986-39-4195

E-mail：umekita@miyazaki-c.ed.jp